

呼びかけ人からのメッセージ

1面から



緊急の課題である少人数学級の実現とともに、地域の小規模校を残してほしい、と訴えています。地域の保護者や住民の運動で学校統廃合計画をストップさせて小さな学校を残したところでは、コロナ禍のことで「よく学校を残してくれた」と絶賛の声があがっているそうです。
もともと少人数学級だから分散登校をしなくてもよい、三密もない、教職員数も潤沢、歩いて通える、子どもの命と安全を守る小規模校はすばらしい、と改めてその価値を見直されているのです。

大人数を「収容」するタイプの学校を見直して

和光大学教授 山本由美さん

例えば、「小学校で算数の授業をするのに20人程度の小集団が最も効果的」であるとか、「積極的な児童生徒の授業参加」「教師によるきめ細かな対応」が少人数学級で得られるといった教育学研究の豊かな蓄積があります。他方、学校をつぶすために人数が多くないと「切磋琢磨」できないといった俗説を文科省すら利用してきた背景があります。日本が「40人学級」を基準にしたのは1980年代。欧州先進諸国に比して遅れていると言われているとアメリカでさえも、教育条件整備要求運動が進められる中、「小1〜3年は1学級24人、小4〜中3は31人(シカゴ市)」といった「少人数学級」が実現しつつあります。

僕が尊敬する教育哲学者の故大田堯先生は、自然界における生命の営みとして教育をどう捉えるべきか、それが「一人ひとりの個性を見えなくしてしまっている」といいます。しかし、考えてみれば、優秀な教師は昔から「個別最適化学習」をしてきたのです。学校は人を育てる場所です。AIの導入よりも先に、全ての教師が子ども一人ひとりの個性と出会い、集まった子どもたちの多様性を祝福できるような、教師の数を増やすことで少人数学級制を実現してほしいと思います。

子どもの声に寄り添い、日本の教育を問い直すとき

教育研究者/高知・土佐町町議 鈴木大裕さん

コロナ休校中、多くの子が学校の再開を心待ちにしています。コロナ禍は、学校がいかに危機に弱いかだけでなく、どれだけ子どもたちにとって大切な場所であるかを私たちに教えてくれました。子どもたちが楽しみにしていたプールや学校行事などをつぶして、休みなく授業ばかりしていたら、逆に学校ギライ勉強ギライを大量生産してしまっています。今こそ子どもの声に寄り添って日本の教育そのものを問い直す時期なのではないでしょうか。



署名は8月末までに中央本部へお送りください。(165%拡大コピーでA4サイズ)

子ども一人一人を大切に 感染症にも強い 少人数学級を求める署名

安倍 晋三 内閣総理大臣 殿
萩生田光一 文部科学大臣 殿

コロナは私たちに色々なことを教えてくれた。学校がないと、こんなにも大変だということ。学校は勉強もだいじだけれど、友だちと遊んだり、話したり、食べたりの全部がだいじだったこと。先生やみんなと、ああでもないこうでもないと思えるのが面白かったこと。
コロナで学校が休みだった時、子どもは一人で宿題をやるのはつまらなかつた。親は、やらせるのがつらかつた。先生たちもとどまつた。久しぶりの学校はうれしかつた。分散登校でクラスの人数が半分になつた時、先生は少しゆつたりして、子どもは授業がいつもよりわかる気がした。
コロナの時代に、子どもを大切にすることを子どもたちに。
私たちは次の2つのことを求めます。

署名項目

1. 安心・安全な少人数学級をすみやかに実施してください

40人学級では子どもの感染を防ぐための身体的距離もとれません。これから必要となる子どもたちのケアや、学習の遅れへの対応も、40人学級ではむずかしいと思います。分散登校中の少人数授業で、一人ひとりの顔がよく見えることや、授業がよくわかることを、先生も子どもも実感しました。全国知事会会長・全国市長会会長・全国町村会会長も少人数学級の実施を求めています。早急に30人学級、その後すみやかに20人程度の学級への移行を実現してください。

2. 授業を詰め込みすぎず、仲間との学びと豊かな学校生活を保障してください

文部科学省は、授業の遅れは2〜3年かけて取り戻せばいい、心のケアを大切にするという方針を示しました。しかし、多くの学校が土曜日も夏休みも授業をしたり、行事を削つたりしています。楽しみな行事も大切にし、子どもたちに仲間との共同の学びと豊かな学校生活を保障するよう、必要な措置を十分にとってください。

Table with 2 columns: 氏名 (Name) and 住所 (Address). The table is currently empty for data entry.

〈呼びかけ人〉少人数学級化を求める教育研究者有志

乾彰夫(東京理科大学名誉教授) / 内田良(名古屋大学准教授) / 小国喜弘(東京大学教授) / 佐久間亜紀(慶応義塾大学教授) / 佐藤学(学習院大学特任教授・東京大学名誉教授) / 清水睦美(日本女子大学教授) / 鈴木大裕(教育研究者・土佐町議会議員) / 中嶋哲彦(名古屋大学名誉教授) / 中村雅子(桜美林大学教授) / 本田由紀(東京大学教授) / 前川喜平(現代教育行政研究会代表) / 山本由美(和光大学教授)

署名の取り扱い

ネット署名も展開中!

change.org署名も展開中です。
http://chnng.it/jv7dqmj



女性ニュース 2020.8.6

感染急拡大国会開け!

国内で7月30日、新たに1日1303人の新型コロナ感染者が確認され、1日当たり過去最多を更新。東京では31日、過去最高の463人を越え、各地で医療体制が逼迫、崩壊しかねない深刻な事態に。都市部を中心に全国各地に、無症状も含めた感染者が急増している感染震源地(エピセンター)が存在していることが危惧されており、感染震源地を特定しての地域全体のPCR検査の実施など、感染をくい止める施策が急がれている。30日には、野党が一致して、憲法第53条にもとづく臨時国会を開催しての徹底審議を求めた。東京都医師会も同日会見し「こういうときに国がプッシュしなくてはならない」と、国会を開くよう要求した。

最上川 5カ所氾濫

7月28日深夜から29日朝にかけて、山形県を流れる最上川が中流の大石田町3カ所、大蔵村と大江町の各1カ所で氾濫した。浸水被害は県内13市町村90棟、2438人が避難した(29日現在)。スイカ畑の崩壊や水田の水没など、農地に打撃的被害が出ている。

84人全員を「被爆者」と認定

7月29日、広島地裁は、広島市や安芸太田町などで1945年8月6日の原爆投下後に放射性物質を含む「黒い雨」

を浴びて健康被害を受けたにも関わらず、市と県が被爆者健康手帳の交付申請を却下したのは違法と訴えていた裁判で、84人(うち9人が死亡)全員の却下処分を取り消す判決を言い渡した。黒い雨をめぐり初めての司法判断。「大雨地域」の線引きの妥当性を否定し、区域拡大見直しを迫った。

准看護師 逆転無罪

長野県安曇野市の特別養護老人ホーム「あずみの里」で入所者にドーナツを提供し、誤って飲み込ませて死亡させたとして業務上過失致死罪に問われていた准看護師に対し、東京高裁は28日、長野地裁松本支部判決(2019年3月)を破棄し、逆転勝利無罪判決を言い渡した。介護中に起きた入所者の死亡をめぐり刑事責任に問われるのは異例。原告団は、「介護が萎縮し後退する」と検察に上告断念を強く求めた。

「レイプにノー」

7月24日、アフリカ南部ボツワナで、歌手で活動家のレフィルウェ・ムーキさんが「レイプにノーと言おう」という新しい運動を開始した。ムーキさんはレイプされた経験があり、「犯人に対してより厳しい判決を求め、被害者を支援し、声を上げるよう促す」ことを決意。国連人口基金(UNPF)によると、同国では約70%の女性が身体的・性的虐待を経験しており、世界平均の2倍以上。